

「海ごみゼロ大作戦フォーラム」 ～浅野川の保全と未来を考える～への運営参画

団体名●池田ゼミナール(4年)／代表者名●池田幸應(人間科学部スポーツ学科・教授)

はじめに

現在、世界的に「海洋ごみ」が大きな環境問題として議論されており、日本でも、「海ごみゼロ」の活動が推進されている。河川は、山から海へとつながっており、河川のごみは海岸漂着ごみの起因ともなっている。その削減へ向けた足がかりとして、今回、金沢市の中心市街地を流れる「浅野川」に着目し、浅野川流域調査を実施し、その結果を踏まえて浅野川と地域住民の生活との密接な関係や産業、伝統文化との関わりについて理解を深めることで、地域の方々や自治体が協働して、ごみ削減の推進活動への一助とするために「海ごみゼロ大作戦フォーラム」～浅野川の保全と未来を考える～が開催された。

活動内容

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、新たに「海ごみゼロ大作戦フォーラム」実行委員会が設置された。この中に野外教育学、地域活性学を学んでおり、石川県「海辺の漂着ごみ調査」や「クリーン・ビーチいしかわ」等の活動に継続参画してきた池田ゼミナール学生も参画し、今回、「浅野川」の全流域におけるごみ調査を実施した。ゼミナール学生は、株式会社環境公害センター職員の専門的調査手法について学び、河川流域調査を実施した〔5/5浅野川の全流域視察、7/11浅野川の事前調査、7/26浅野川全流域のごみ調査、8～12月結果分析〕。



浅野川流域での学生たちの調査活動

また、その結果を踏まえて、海ごみ削減の推進活動への一助とするために「海ごみゼロ大作戦フォーラム」が開催された。また、フォーラム〔2/18金沢星稜大学 A11教室、石川テレビ youtube 生配信〕では、浅野川に関連した各団体の方々と共にパネリストとして、パネルディスカッションに登壇し、調査状況や河川・海環境保全に対する提言を行なった。



フォーラムで発表するゼミ代表学生

成果、結果の考察

本事業は、まず浅野川流域でのごみ調査を実施し、その結果を受けて、海ごみゼロへとつながる活動として、「海ごみゼロ大作戦フォーラム」を開催し、海、河川、生活環境のごみ削減への情報配信と人々の意識向上を図るものであり、池田ゼミナール学生は、その中心的な役割を担った。調査結果として、下流側になるほどごみの量が増える傾向にあること、住居や商業施設などが近い市街地では、ごみが少なく、人の活動が少ない上流域や、反対に歩行者が多く人目に触れる市街地では「ポイ捨てごみ」は少なかったが、普段は人が少なく、レジャーなどで訪れるような場所(球場など)が近くにある下流域は「ポイ捨てごみ」が多かったことが明らかとなった。

今後の課題、展望

来年度も本事業の継続が決まっており、河川流域でのプロジェクト清掃活動への参加者の輪が更に広がることが期待される。